

尼北だより



学校通信 第481号

平成29年1月31日

尼崎市立尼崎北小学校

校長 都倉 功充

支えられていることに感謝、そして人の支えに

一月は、オープンスクールに来校いただき、子どもたちの書き初めもごらんいただいたこと、心より感謝申し上げます。書き初めにおいては、4年生以上は寒い体育館でしたが、学年が一堂に会した中で集中して書き上げました。また、3年生までも各教室で、字の上達を願いつつ一生懸命書いていました。パソコンを使うことが多くなってきた時代ですが、筆や鉛筆を持ち、個性のある字を書くということは、大切なことだと思います。

さて、昔から、大寒から立春までが一番寒いと言われています。その通りで、今年には特に猛烈な寒さになりました。そして、インフルエンザも猛威をふるい、本校でも学級閉鎖を余儀なくされました。早めの帰宅や家庭で過ごす日もできましたが、子どもたちの健康維持のためですので、ご理解・ご協力を引き続きよろしく願いいたします。

立春の前日は、節分です。今年も学校では、節分集会があります。自分の中の弱い心ややっつけてしまいたい自分は、誰にもあるものです。そんな自分の中の鬼を追い出し、福がやってくることを願って、行事を楽しんで欲しいです。「鬼は～、外。福は～内」という大きな声と共に。

先日、冬季オリンピック選手の壮行会をニュースで取り上げていました。その選手たちのインタビューを見ていると、ほとんどの方が、全力を尽くしたいという闘志と、これまで支えて下さった方々への感謝を口にしていました。華やかな演技や優れたパフォーマンスの陰には、計り知れない努力と、多くの人々の支えがあったからでしょう。その姿を拝見していて、私は、相田みつをさんの「にんげんだもの」という本の中にかかっている詩を思い出しました。

花を支える枝
枝を支える幹
幹を支える根

根はみえねんだよなあ 相田みつを 著「にんげんだもの」

発行所：文化出版局

これから春を迎えるにつれ、梅、桃、桜と綺麗に咲く花に心を癒されるでしょう。しかし、地上で見えている華やかな部分の陰には、地中でしっかり支える根があるのです。普段は、そんなことにはなかなか目がとまらないのですが。

3学期は、ふり返りの学期です。今の自分が成長できているのも、ときには思い悩みながらも踏ん張ってられるのも、もたもたしながらも生活し生きてられるのも、自分を支えるてくれている根があるからです。その根は、自分自身でもあるし、周りの家族、友だち、先生たちでもあります。子どもたちには、謙虚な気持ちと感謝を持って、目に見えない肝心なものを見つめ、前へ進んでほしいと願っています。

また、まわりの困っている人に気づき、優しく声をかけたり、手をさしのべて助けたり、ときにはいけないことをしていたら厳しく注意してあげたりすることも、みんな人の支えになっていることです。自分が誰かの役に立っているというのは、生きがいにもなるほどです。

支えられていることに気づき感謝することは大事です。それと同じく、人の支えになっている姿も素晴らしいことです。そんな尼崎北小学校の子どもたちになってほしいものです。

